

カナダにおける図書館情報学教育(1)

大 城 善 盛

1. はじめに

アメリカ合衆国の図書館情報学教育に関しては、わが国でも最近いくつかの論文が発表され比較的よく知られている。しかし、カナダにおける図書館情報学教育に関しては、最近、白井氏の論文があるのみで、¹⁾その分野の研究はあまり進んでいない。その上、カナダにおける専門職図書館員(professional librarian)の養成としての図書館情報学教育はアメリカ図書館協会(American Library Association, 以下、ALAと略称)の認定を受ける仕組みになっているので、カナダの図書館情報学教育はアメリカ合衆国の分派として理解される傾向がある。

しかし、アメリカ合衆国の強い影響を受けながらも、カナダは独自の図書館情報学教育を行っている。以下に、その歴史的展開を考察する。カナダの図書館情報学教育は、1) 1930年以前、2) 1930-1945年、3) 1946-1950年代、4) 1960年代、5) 1970年代、6) 1980年以降、というふうに大枠の時代区分をすることが可能である。この小論では、この時代区分にしたがって論を進める。なお、図書館情報学教育はカナダでは1970年代まで図書館学教育と呼ばれており、この小論では時代に応じてその両者を使い分ける。

2. 1930 年以前の図書館学教育

カナダにおける正式な図書館学教育は、ケベック州にあるマギル大学 (McGill University) で始まった。マギル大学は 1821 年創立の長老派系の私立大学で、カナダで最も古い大学の一つである。マギル大学の図書館長 C. H. Gould は 1904 年、図書館員のための夏期講習を開いた。ニューヨーク州図書館学校 (New York State School of Albany) の校長 M. Dewey がコンサルタントであった。Gould は最初 1 年コースを計画していたが、大学の財政的バックアップが得られず夏期講習となった。その夏期講習は 1927 年、1926 年制定の ALA の夏期講習最低基準 Minimum Standards for Summer Courses in Library Science による審査を受け、「タイプ 4」型と認定された。²⁾

1920 年に Gould の後継者になった G. Lomer 図書館長は、図書館学を大学の正規の科目に取り入れるべく努力した。カーネギー財団の資金的援助と ALA の図書館学教育部会 (Board of Education for Librarianship) の推薦を得て、1927 年正規科目の中に取り入れることに成功した。卒業時に図書館学の修了証書 (diploma in librarianship) が授与された。この図書館学コースは 1929 年、1925 年制定の ALA の図書館学校最低基準 Minimum Standards for Library Schools による審査を受け、「タイプ 2」すなわち、学部課程の図書館学コースとして認定された。³⁾

オンタリオ州では、ケベック州に遅れること 7 年の 1911 年に正式な図書館学教育がスタートした。オンタリオ州の公共図書館監督官 T. W. H. Leavitt は、1904 年に開講されたマギル大学の夏期講習の意義を理解し、自分の州の図書館員も参加することを推奨すると共に、自州にも開講するようオンタリオ州教育局に働きかけた。それが契機となり、7 年後の 1911

年にオンタリオ州でも 4 週間の正式な図書館学教育が開始された。ケベック州ではマギル大学が実施主体であったが、オンタリオ州では州の教育局が実施主体者であった。Leavitt の後を継いだ W. R. Nursey の監督の下、最初の年はトロント市内の学校で実施されたが、1912-1914 年はトロント大学の図書館で開催された。そして、1916 年からトロント公共図書館に移った。その講習は 1917 年に 2 ヶ月コース、1919 年には 3 ヶ月コースになった。⁴⁾

講習は、初期の頃は高校卒業の図書館員でも受講できたが、1920 年代になると受講資格は厳しくなった。大学を卒業していない受講希望者は試験を受けねばならなくなつた。その上、科目を履修する前に指定された図書館で図書館経験を積む必要もあった。その代わり、受講生の大多数はオンタリオ州出身であったが、受講料は無料である上に、受講生には教科書と文具が無料で配布された。やがて 3 ヶ月コースはオンタリオ図書館学校 (Ontario Library School) として知られるようになった。履修内容は、公共図書館組織や運営のための実務的側面を重視したものであった。授業方法は約 40% の講義と 60% の実習からなっていた。具体的な授業内容は、オンタリオ州最大の公共図書館であるオンタリオ市公共図書館で実践されているものが教えられた。すなわち、実務教育であった。まもなく、授業は理論的側面や図書に関する知識、そして、ライブラリアンの役割をもっと重視すべきだという批判が起こった。公共図書館監督官 W. O. Carson も、履修後現場ですぐ役立つような実用的側面に多くの時間をかけていたことを認めた。しかし他方、図書館現場では、現状の方法で訓練された新米の図書館員に満足する図書館も多かった。受講生の数に関しては、1911 年から 1927 年までに 460 人以上が受講した。そして、約 30% は大卒であった。しかし、その 460 人以上のうちに男性はたった 6 人であった。⁵⁾

オンタリオ州では 1920 年代後半になると、Carson の努力も手伝って州

政府の公共図書館への財政的援助は増大し、講習の基準もレベルアップした。しかし、教授陣は現場の図書館員でパートタイム教員であった。当時アメリカ合衆国も同様な状況にあり、1923年にはかの有名なウイリアムソン報告が公表され、大学教育の一環としての図書館学教育及び養成が提唱された。⁶⁾そのような動きも知っていたCarsonは、トロント大学に1年コースの図書館学教育を開設するよう働きかけた。上記したように、同じ頃マギル大学では図書館長Romerが同様な要求を出し、1927年に大学の一環に組み込むことに成功していた。1年コースの図書館学を開設して欲しいというオンタリオ州教育局長の要請を受けて、1928年3月にトロント大学理事会(Board of Governors of the University of Toronto)は会議を開き、オンタリオ教育大学(Ontario College of Education。トロント大学の一部。以下OCEと略称)に開設することを決議した。カリキュラムの責任はコース長にあったが、大学評議員会(The University Senate), 大学理事会、およびオンタリオ教育大学長(Dean of OCE)の認可を必要とするところにそのコースの特徴があった。⁷⁾

トロント大学の場合、専任は初期の頃はコース長、講師、秘書の3人であった。それに7人の非常勤講師が加わる形で運営された。学生の一週間の典型的な履修パターンは、12時間の講義と8時間の分類と目録の演習であった。また、図書館実習もコースの重要な一環であった。2学期になると学生は5週間、毎金曜日地方のさまざまな図書館で実習をさせられた。そして、その5週間の実習後、特定の図書館に配属され、自分が関心をもつ分野の実習を2週間その図書館で行った。⁸⁾

オンタリオ州では、1924-1927年の短期間、ウェスター大学(Western University, 現 University of Western Ontario)でも図書館学の教育が行われた。1924年ウェスター大学は女性の要求(needs)を充たすという目的で、「一般コース：図書館学と秘書学」(General Course : Library and Secre-

tarial Science) を設置した。卒業すると、文学士 (Bachelor of Arts) が授与された。学生は 3 年に進級する時に図書館学または秘書学を専攻することができた。図書館学の教員は大学図書館の職員であった。しかし、1927 年、オンタリオ州教育局がトロント大学に図書館学コースの設置を要望したため、図書館学専攻は廃止された。3 年間の間に 9 人の女性が図書館学を専攻して卒業した。⁹⁾

3. 1930 年－1945 年の図書館学教育

マギル大学の図書館学コースは、1930 年になると入学基準を厳しくし、一定の評価を得ている大学 (recognized university) から学士号を得ている者に限った。そして、1 年間の履修後、図書館学士 (Bachelor of Library Science, 以下 BLS と略称) を授与した。そのカリキュラムは 1931 年、ALA によって大学院レベルの図書館学教育として認定された。1934 年には、1933 年制定の ALA の最低基準 Minimum Requirements for Library Schools による審査を受け、「タイプ 2」型と認定された。¹⁰⁾

このような急激な変化が起こった背景には、カーネギー財団からの財政的援助が大きく影響していた。ウィリアムソン報告は図書館学教育を大学のなかに位置づけ、学士号を入学資格とすることを勧告していた。それはカーネギー財団の基本的な考え方でもあった。認定システムを確立するための ALA への援助や、図書館学校の教育の質を高めるための財政的援助がカーネギー財団から行われることにより、ウィリアムソン報告の中の勧告はまもなくアメリカ合衆国における図書館学教育の目標および標準となつた。1935 年までには、認定された 26 の図書館学校のうち 16 校が大学院レベルのプログラムをもつようになつていて、マギル大学の変革もそれと軌を一にしていた。¹¹⁾

1940年になると、マギル大学の図書館学教育へのカーネギー財團からの財政的援助が打ち切られた。それは、財團、ひいてはアメリカ合衆国からの直接的影響の終止符を意味した。大学はその後の財政的負担を一手に引き受けた。しかし、教育パターンは従来通りアメリカ型を踏襲した。コースから学科になった図書館学科は人文・科学学部 (Faculty of Arts and Science) の中に組み込まれ、学科長は人文・科学部長に報告する義務を負わされた。また、従来、学科長は図書館長が兼務していたが、1949年に Ross 教授が Romer 教授の後を継いだ後は専任学科長となった。¹²⁾

トロント大学の場合、図書館学教育は 1928 年にオンタリオ教育大学に開設されたが、その教員は 2 人の専任を除き、ほとんどが以前のオンタリオ市公共図書館での短期コースからひきつづき教えている現場の図書館員であった。そのため、大学に移行してからも科目に対する考え方や授業の進め方は以前の影響を強く受けていた。図書やライブラリアンに関する教育が希薄な上にスケジュールはきつく、教員も学生も多忙を極める、という状況であった。また、同じクラスに卒業生と在学生が混在して教えにくい状況もあった。¹³⁾

当時大学図書館長で非常勤講師も務めていた S. Wallace は、そのような状況を変革すべく学位 (degree) コースと卒業証書 (diploma) コースの 2 種の開設を提案した。その提案は、学位コースの開設は ALA の認定につながるとして図書館界でも支持された。上述したように、マギル大学では既に 1931 年に図書館学士 (BLS) を授与し、ALA の認定を受けていた。学科長の G. Barnstead はそのような内外の要請に応えるべく改革に乗り出し、1936 年に学位コースと卒業証書コースの 2 種を開講した。初年度は 31 人が学士号を、17 人が卒業証書を授与された。卒業証書コース、すなわち、在学生で図書館学を履修する学生は、1936 年度から 1946 年度までの 10 年間で 50 人しかいなかつた。なお、トロント大学では 1936 年

までに 111 人の diploma 保持者を出していたが、その中の 96 人が 1950 年までに研修を受けるなどして図書館学士（号）を取得した。¹⁴⁾

学科長の Barnstead は 1937 年、ALA の認定を受けるべく認定チームの実地調査を依頼した。その認定チームの中には、かの有名なハーバード大学図書館長 K. D. Metcalf とミシガン大学の図書館学教授 M. Mann がいた。実地調査チームから、トロント大学は技術分野を重視した保守的図書館学校であると評価されたが、一応「タイプ 2」型として認定された。技術分野の教育を減らして図書に関する教育をもっと重視すること、スタッフの数を増やすこと、などの勧告も付された。トロント大学はその勧告を受け入れ、1938 年にはピッツバーグ・カーネギー図書館学校 (Carnegie Library School at Pittsburgh) の M. E. Silverthorn を採用し、「選書」と「利用者サービス」の科目担当に当たった。そして、トロント大学はその後もスタッフを増やしていく。¹⁵⁾

同 1937 年、ケベック州に図書館学校 (Ecole de Bibliothécaires) が設立され、フランス語圏でも正規の図書館学教育が始まった。その Ecole はモントリオール大学 (Université de Montréal) と連携していて、責任者は大学の中に統合しようと試みたが成功しなかった。授業はモントリオール市立図書館で行われた。1945 年以降は修了者にモントリオール大学から図書館学の学士号が授与された。しかし、1961 年までその Ecole に専任の教授が就任することはなかった。¹⁶⁾

1938 年、オタワ大学 (University of Ottawa) にも図書館学科が設立された。大学卒を入学資格とし、修了者には図書館学士が授与された。授業は英語もしくはフランス語で行われた。学生は少なくともいずれかの言語に堪能で、もう一つの言語については授業に困らないくらいの能力を要求された。¹⁷⁾

カナダの大学は英語圏ではイギリス、フランス語圏ではフランスの影響

が強かったが、図書館学教育に関してはアメリカ合衆国の影響を強く受けた。その要因としては次のようなことが考えられる。¹⁸⁾

- a) 図書館学に関しては、当時アメリカ合衆国が国際的レベルでも進んでいた。
- b) カナダの図書館および図書館学教育に対してカーネギー財団から財政的援助があった。
- c) ヨーロッパに図書館学教育のいいモデルがなかった。

イギリス、フランスの両国において、ライブラリアンの養成は徒弟制度的に行われていた。大学教育の一環としての図書館学教育という点では、イギリスやフランスはアメリカ合衆国より遅れていた。イギリスの場合、1911年にやっと Carnegie United Kingdom Trust の財政的援助を得てロンドン大学（University of London）に図書館学部（School of Librarianship）が創設された。そして、1946年になって初めて大学院レベルの教育（graduate program）が行われた。そのような訳で、アメリカ合衆国をモデルにすることにより、カナダはライブラリアンのアカデミックな養成（大学における養成）という点で母国イギリスやフランスより先んじていた。

4. 1946–1950年代の図書館学教育

1950年代はカナダの図書館学教育がアメリカ合衆国から独立し始める時期である。最初にその背景を概観すると、カナダは第2次世界大戦後経済的な好景気に恵まれ、人口も急増していった。そして、国民は自信に満ちていた。図書館サービスも含めて文化的活動が盛んになった。

特に、従来なかった地域に公共図書館が次々と建てられていった。カナダにおける図書館サービスは、1930年代以降次第に向上していたが、第2次世界大戦中および直後に大きく飛躍しライブラリアンの数が不足した。

そして、現職のライブラリアンに大きな期待がかけられた。1944年、Canadian Library Council は連邦議会の再建特別委員会 (House of Commons Special Committee on Reconstruction and Re-establishment) に、1) 国立図書館の設立、2) 地域図書館サービスの確立、3) ライブラリアンとその養成基準の確立、の3点を要請した。また、カナダには当時7つの州図書館協議会があったが、その協議会も同様なアピールを州議会に行った。¹⁹⁾

1940年代に入って、ライブラリアンの養成レベルは益々上がったが、そのレベルが上昇するにつれて、プロのライブラリアンと他の職員との区別が必要になってきた。ブリティッシュ・コロンビア州議会は1944年に、オンタリオ州議会は1946年に公共図書館で働くライブラリアンの資格に関する法律を制定した。オンタリオ州の場合、資格はA級からE級まで5段階あった。例えば、A級の資格者は図書館学士号および修士号を持っている人であった。E級は4週間の短期コースを受けた人に与えられた。B級資格には学士号(degree)の保持者、C級資格には卒業証書(diploma)の保持者がそれぞれ相当した。このような資格制度は、公共図書館理事会に専門司書を雇用するよう奨励する効果を生むと同時に、また、理事会にとっては一種のプレッシャーにもなった。A~C級のライブラリアンを雇用する余裕のない小規模の図書館は、州教育局によって開講される上記の短期コースの修了者を雇用するよう奨励された。²⁰⁾

他方、1946年にはカナダ図書館協会 (Canadian Library Association, 以下 CLA と略称) が創立され、1953年には待望のカナダ国立図書館 (National Library of Canada) が設立された。1951年には芸術・人文・科学に関する通称 Massey 報告と呼ばれる政府報告書が出され、図書館の重要性が強調された。²¹⁾

アメリカ合衆国では、1948年になるとALAによる認定作業が中止された。コロンビア大学をはじめ多くの図書館学部が、デンバー大学の図書館

学部（College of Librarianship）を真似て修士号を授与し始めたからである。デンバー大学図書館学部は従来「タイプ3」、すなわち、学部レベルで図書館学を教える学部であった。しかし、1947年にカリキュラム改訂を行い、大学院レベルでの1年の履修後修士号を授与した。デンバー大学では学部でのコアの図書館学科目（15単位）の履修を入学条件とし、大学院では2学期を図書館学の履修（デンバー大学はクォーター・システムを採用していた）、第3学期を学部で専攻した主題領域の学習に専念させ、最後に修士論文を提出させて修士号を授与した。すなわち、大学院1年で修士号を授与するというものであった。「タイプ1」の図書館学部、すなわち、2ヶ年の図書館学教育で修士号を授与していた大学からデンバー大学のようなシステムに対して反対の声が挙がったが、体勢はデンバー大学方式に向いていた。そして、1951年に新しい認定基準 Standards for Accreditation が Association of American Library Schools と ALA Library Education Division の協力を得て作成された。²²⁾ 1951年基準の大きな特徴は、図書館員養成を基本的に大学院レベルにおいていたことである。養成は中等教育後5年間で行うとし、原則的に4年間の学部教育と1年間の大学院での図書館学の教育で成立するとした。そして、授与される学位は修士号とした。²³⁾ 従来の5年学士（BLS）はなくなった。また、現実には、学校図書館員の養成などを目的とする学部課程の図書館学教育も多く存在したが、ALA 図書館学教育部会は専門職としての図書館員養成の認定基準に限定するとし、従来の種別（タイプ）を廃止した。

しかし、カナダのマギル大学とトロント大学の図書館学部は、アメリカ合衆国に同調せず1951年基準による認定も受けようとしなかった。カナダの大学では修士号は研究学位であり、大学院に入るには同じ主題分野の学士号が前提である、という風潮が強かった。トロント大学の場合にはもう一つの他の事情もあった。上記したように、オンタリオ州では図書館学

の修士号（Master of Library Science 以下、MLS と略称）を保持する A 級ライブラリアンが必要とされていた。しかし、カナダには修士課程の図書館学教育を行っているところはなかったので、トロント大学は 1949 年に修士課程の設置準備に取り掛り、1950 年 3 月には大学評議会を通過し、1950 年度からスタートしていた。その修士課程は調査研究法（research methods）も含んだより上級の専門的な学問研究をめざしていた。そして、それは大学院研究科（School of Graduate Studies）の規定に則って運営されていた。入学条件として図書館学士（BLS）もしくはそれに相当する資格を要求した。すなわち、図書館学士（BLS）を前提とする 2 ヶ年修士課程を設置していた。しかし、修士論文はオプションとしていた。²⁴⁾

オタワ大学も 1950 年に図書館学の修士課程を開設した。そして、マギル大学も研究法にも熟知したより上級の専門的学問研究をめざす修士課程を 1956 年度から開始した。マギル大学はトロント大学とは異なり履修期間は 1 年であったが、入学条件として図書館学士（BLS）もしくはそれに相当する資格を要求した。後に、アメリカ合衆国の 5 年修士に対して、6 年修士と呼ばれるようになる。また、図書館学士課程がトロント大学同様、人文・科学学部（Faculty of Arts and Science）の下にあったのに対し、修士課程は大学院研究科（Faculty of Graduate Studies and Research）の下に置かれた。修士号（MLS）を取得するには、調査研究法（Research Methods）の履修のほか、英語以外の外国語（フランス語が好まれた）の読解力が要求された。なお、履修科目に関しては、いくつかは他学部もしくは他学科で提供されている大学院レベルの関連科目で代替することも可能であった。修士論文に関しては、トロント大学と異なり必須とした。²⁵⁾

他方、CLA は 1947 年に図書館学教育の認定を ALA に委託することを決めていた。そのため、トロント大学やマギル大学では ALA からの認定は最初は無視していたものの懸案事項であった。トロント大学の学長 S.

Smith は ALA に認定の件について問い合わせた。ALA からは、学位は当該機関の専決事項であり、重要なことは実質的な大学院教育を行っているかどうかである、という答えが返ってきた。そのような返答を得て、図書館学科長 B. Bassam はさっそく 1956 年、認定のための実地調査を ALA に依頼した。2 回目の実地調査の時にはカナダ側からの代表も一人加わった。審査の結果、2 学期で修了するカナダの図書館学士 (BLS) 課程は、3 学期で修了するアメリカ合衆国の修士 (MLS) 課程に匹敵すると考えられ、同年トロント大学の学士課程は ALA によって専門職教育として認定された。実地調査チームは、学生への奨学資金や教員への研究助成金の充実、博士号をもつ教員の補充などを勧告した。また、OCE との密接な関係に疑問も投げかけた。²⁶⁾マギル大学もトロント大学同様、図書館学士 (BLS) 課程の認定を申請した結果、1957 年に認定された。

以上、1950 年代までの図書館学教育をトロント大学とマギル大学を中心に考察したが、1960 年以前のカナダの図書館学教育はこの 2 大学が占めていたと言っても過言ではない。オタワ大学は小規模であったし、モントリオール大学においては図書館学教育が大学の一環に組み込まれるのは 1961 年になってからである。また、マウント・セイント・ヴィンセント大学 (Mount Saint Vincent College) やその他の大学 (college) でも図書館学教育は行われていたが、規模は小さく長続きもしなかった。その上、それらの図書館学教育は ALA の認定を受けることもなかった。(「付表」を参照)

5. 1960 年代の図書館学教育

5.1 専門職教育としての図書館学教育の飛躍的発展

1960 年代は、カナダの教育、特に高等教育がダイナミック、かつ、刷

新的に変化した時代である。大学生人口は急増し、新しい大学や学部が次々と創設された。そして、カリキュラムも多様化していった。時代の雰囲気は刷新ムードに満ちていた。大学図書館や他の図書館も同様な状況にあった。しかし、増大していく研究活動を支援するには、大学図書館はサービス体制が遅れがちであった。1960年代には、大学図書館の不備を指摘する4つの報告書も出た。1) Resources of Canadian University Libraries for Research in the Humanities and Social Sciences, 2) Library Support of Medical Education and Research in Canada, 3) Science-Technology Literature Resources in Canada, 4) Resources of Canadian Academic and Research Libraries, である。²⁷⁾

また、専門職図書館員の数が絶対的に不足していたために、業務の再検討、再教育、図書館学教育の全国計画の必要性などが指摘された。不足している専門職図書館員を補充するための養成機関の増設の必要性も指摘された。²⁸⁾そのような状況や社会の要請を受けて、1960年代には4つの大学、すなわち、ブリティッシュ・コロンビア大学(University of British Columbia), ウエスタン・オンタリオ大学(University of Western Ontario), アルバータ大学(University of Alberta), ダルハウジー大学(Dalhousie University)に新しい図書館学部(もしくは図書館情報学部)が創設された。

ブリティッシュ・コロンビア大学の図書館学部(School of Librarianship)は、イリノイ大学図書館学部の卒業生で、後にレファレンスの権威者となるS. Rothsteinを学部長に迎えて1961年に創設された。そして、翌年の1962年にはALAから認定された。Public Library Commission of British Columbiaは、Training Professional Librarians for Western Canadaという1957年の報告書の中で、3年以内にブリティッシュ・コロンビア大学に図書館学部を創設することを勧告していた。上記のように、1960年

以前まではカナダの図書館員養成はマギル大学とトロント大学を中心に行なわれていて、図書館サービスは向上しながらも西部地域には一つの養成機関もなかった。²⁹⁾

上記の Public Library Commission の勧告を受けて、ブリティッシュ・コロンビア大学はいくつかの委員会を設置し詳細な調査を実施した。そして、1961年2月、大学理事会は同年の秋（新学期）から開講することを公表し、9月には新しい図書館学部が誕生した。同学部は学士号保持を入学条件とし、1年の履修後、図書館学士（BLS）を授与した。カリキュラムは、最初の学期はコアとなる必須科目、すなわち、図書館学概論、目録と分類、レファレンス、資料選択論、出版論、および児童文献を履修し、2学期には選択科目を履修することになっていた。そして、選択科目の履修により学生は各自の専門（specialization）を深めるように編成されていた。³⁰⁾

カナダの中心であるオンタリオ州でも、上記のように、1950年代から図書館員の需要が高まっていた。1960年代も好景気がつづいたので、専門職図書館員の需要はますます高まり、トロント大学だけでその需要を満たすことができなくなっていた。そのような状況に対処するために、オンタリオ州政府は1965年にウェスター・オンタリオ大学に図書館学部の創設を要望した。それに応えて、ウェスター・オンタリオ大学は1967年に図書館情報学部（School of Library and Information Science）を創設した。その図書館情報学部は、名称が示唆するように他の図書館学部とは異なり、新しく発達しつつある情報学を従来の図書館学の中に統合することを意図していた。また、学位の授与に関しても他の図書館学部と異なっていた。ウェスター・オンタリオ大学は3学期制（trimester system）を採っていて、1年（3学期）の履修後、アメリカ合衆国と同様図書館学修士（MLS）を授与した。1969年にはALAの認定を得た。³¹⁾

カナダの草原地帯、すなわち、アルバータ州、マニトバ州、サスカッチャワン州は人口は少なく文化的にもあまり恵まれていなかった。しかし、それでも 1950 年代から 1960 年代にかけて他の地域同様、図書館サービスは発達し専門職図書館員が不足していた。1961 年にブリティッシュ・コロンビア大学に図書館学部が創設されてから、この草原地帯の州からも学生が学びに行つたが、彼等の多くは故郷に帰ることはなかった。そのため、これらの州はイギリスやオーストラリアなどのイギリス連邦国から図書館員を補充して間に合わせていた。そのような状況の中で、3 州の図書館協会を代表してエドモントン市立図書館長 M. Coburn 等 4 人が、アルバータ大学、マニトバ大学 (University of Manitoba), サスカッチャワン大学 (University of Saskatchewan) の 3 学長に自分たちの州の需要を満たすべく、いずれかの大学に図書館学部を設立するよう要望書 (A Library School for the Prairie Provinces : Brief) を手渡した。種々の綿密な調査の結果、3 州の中では比較的経済的に恵まれた州の大学、すなわち、アルバータ大学が引き受けることになった。その創設案は 1965 年に大学理事会によって承認され、1967 年にはアメリカ合衆国連邦政府教育局の図書館担当官 S. Reed が学部長に任命され、1968 年に開講した。学位に関しては、ブリティッシュ・コロンビア大学と同様、1 年 (2 学期) の履修後図書館学士 (BLS) を授与した。1970 年には ALA の認定を受けた。1970 年代に入ると、他大学の図書館学部がこの図書館学士課程を早々に廃止するが、アルバータ大学は 1976 年まで維持した。カリキュラムは、ブリティッシュ・コロンビア大学と同様、伝統的な科目で成り立っていた。³²⁾

カナダの大西洋地域の図書館員の補充機関として、1969 年ダルハウジー大学に図書館学部 (School of Library Service) が創設された。その構想は既に 1957 年からあった。1957 年、大学評議員会は委員会を設け、図書館学部の必要性を調査させていた。その後 10 年間にさまざまな委員会が

設置され調査報告書が出されたが、Council of the Canadian Library Association や Atlantic Provinces Library Association 等のバックアップもあって、それらの報告書は大抵設立を勧告していた。1968年、コロンビア大学図書館学部 (Columbia University School of Library Service) の J. Dalton 学部長と地域の図書館員の勧告を得て、ダルハウジー大学は Nova Scotia University Grants Committee に財政的援助を求めた。その助成要求は受諾され、1969年図書館学部が創設された。図書館学部は大学院研究科 (Faculty of Graduate Studies) の基準に則って運営されたが、組織的には行政学部 (Faculty of Administrative Studies) の傘下に置かれた。カリキュラムは、カナダとアメリカ合衆国の混合型で、1年履修 (BLS) と2年履修 (MLS) があった。ALA から認定を受けるべく1972年実地調査を依頼した。審査の結果は、同学部の組織上の位置づけなどの問題があつて不認定になった。しかし、不服申請をした結果、翌1973年に認定された。³³⁾

1937年にケベック州のフランス語圏の人々のために図書館学校 (Ecole de Bibliothécaires) が設立され、1945年以降はモントリオール大学が修了者に図書館学士 (B. Bibl.) を授与していた。しかし、「付表」を見ても分かるように、1945年から1959年までの14年間に修了者 (B. Bibl. 保持者) はたった55人 (年平均4人弱) であった。1961年にモントリオール大学はその図書館学校を引き継ぎ、大学の専門職教育の中に位置づけることを決定した。カナダやアメリカ合衆国の他の図書館学部と比肩できるよう改革すること、そして、ALA の認定を得ることを目標とした。名称も Ecole de bibliothéconomie に変更された。学士号保持を入学条件とし、1年の図書館学の履修後、図書館学士 (B. Bibl.) を授与した。カリキュラムは、ブリティッシュ・コロンビア大学の図書館学部と似た内容のものであった。しかし、1969年までALA の認定を得ることができなかつた。ALA の1951年基準が入学条件としているアメリカ合衆国の学士号と、古

典学を中心とするケベック州の学士号の間の同質性に関して疑問がもたれたためである。それを解決するために、モントリオール大学は1966年に図書館学士課程を2ヶ年に延長した。そして、その2ヶ年間に学生は図書館学だけでなく、ALA認定委員会によって指摘された一般教育も学んだ。2ヶ年学士は1971年までつづいた。³⁴⁾

上記のように、マギル大学は1956年に専門的学問研究をめざす修士課程を設置したが、「付表」を見ても分かるように、1963年までの7年間に修士号を取得した人は7人だけであった。また、専門職教育としての図書館学士課程の課題、すなわち、専門化(specialization)の余裕がないという課題をマギル大学も抱えていた。それらの課題を解決すべく、マギル大学は1965年にカリキュラムの大改革を行った。最初に図書館学士課程を廃止した。そして、従来、修士論文を必要とした修士課程を大きく改訂し、初年をコア科目の履修、2ヶ年目を専門化(specialization)に当てる専門職教育のための新しい修士課程を作った。修士論文は廃止した。そのような大改訂が行われた背景には、次のような要因があった。³⁵⁾

- 1) 従来の1年2学期の図書館学士教育では必須科目をカバーするのが精一杯で、専門職教育としての専門化(specialization)のための選択科目を履修する余裕がなかった。
- 2) アメリカ合衆国のような1年のカリキュラムで、図書館学及び新しく出現してきた情報学が創出する理論的、応用的知識をカバーすることは難しくなってきている、という認識があった。
- 3) 図書館学士は大学の内外で大学院の学位としてはあまり認められていなかった。
- 4) 図書館学、機械工学、教育学、経営学、社会福祉等の学問は、修士論文を伴う伝統的な修士課程教育とは異なる大学院教育が必要であることが分かった。

- 5) マギル大学では、設置している多くの専門職教育の質と名声を維持・発展させることに最大の関心を払っていた。

1967年には、上記のように、ウェスター・オンタリオ大学がアメリカ合衆国式の修士号を授与する図書館情報学部を創設したので、1960年代後半になると図書館専門職教育としての期間および学位に足並みが乱れてきた。そのような状況を懸念して、トロント大学の図書館学部長が1968年会議を招集した（それは、後にトロント会議と呼ばれるようになる）。当時専門職教育を行っていた7つの図書館学部、すなわち、トロント大学、マギル大学、オタワ大学、モントリオール大学、ブリティッシュ・コロンビア大学、ウェスター・オンタリオ大学、アルバータ大学の図書館学部長と（図書館学部）設置計画中であったダルハウジー大学の代表者が集まった。そして、次のことが議論された。³⁶⁾

- 1) アメリカ合衆国では、ずっと以前から MLS を最初の専門職学位としていること。
- 2) 最近、カナダにおいても最初の専門職学位として MLS が出現していること。
- 3) 1年のプログラムで必須部分をカバーすることが次第に難しくなってきていること。
- 4) 図書館界でスペシャリストの需要が高まってきていていること。
- 5) アメリカ合衆国で学部課程の図書館学が普及してきていること。
- 6) アメリカ合衆国とカナダで図書館技能者 (library technician) のためのコース（教育）が出現してきていること。

1960年代になると情報学が発達し、オートメーション、ドキュメンテーション、データ処理等を図書館学で教える必要性が指摘されるようになった。しかし、1ヶ年でそれらもカバーすることは極めて難しく、上記の

3) はその状況を指していた。また、1960年代になると、経営管理者、主題専門家、情報検索の専門家としての図書館員の需要が次第に増し、将来もその需要はますます高まるだろうと予測された。上記4) のスペシャリストの需要とはそのことを指していた。また、1968年時点で、北米にはALA認定の図書館学部が41学部あった。そして、認定を受けていない大学院レベルの図書館学部も78学部あった。さらに、アメリカ合衆国には、学部(undergraduate)で図書館学を副専攻できる大学が183大学あった。それらの大学はALAに何らかの認定をするよう求めていた。カナダには当時学部課程は殆どなかったが、そのような動きの中でカナダの図書館学士(BLS)の位置づけが曖昧になる可能性があった。³⁷⁾ 上記5) はそのような背景の下で議論された。(カナダの図書館学部が授与した学位の種類と数については論文末の「付表」を参照。)

カナダの場合、学部レベルの図書館学教育の代わりに、図書館技能者(library technician)コースが出現した。それは、コミュニティ・カレッジと呼ばれる短期大学で発達した(図書館技能者コースについては後に詳述)。図書館サービスが拡大・向上し専門職図書館員が不足してくると、効率化の観点から職務の分業化がますます進む。かつて専門的職務と考えられていたものが補助的職員の職務の範疇に入ったりする。そして、専門職図書館員は高度な技術と判断が要求される職務に専念するよう要求される。1960年代のカナダにはそのような状況が生じてきていた。大学院レベルにある図書館学部に教育のレベルを高めると同時に、従来のような技術重視ではなく、専門職にふさわしい理論と問題解決に重点をおいた図書館学教育を行うよう一種の圧力があった。そしてまた、カナダの大学では、MLS課程は他の修士課程と同様厳しいレビューがあるので、2ヶ年課程にする必要性もあった。³⁸⁾

このような状況の中で、トロント会議に集まった代表者は上記6項目を

検討した訳である。その結果、次のような決議をした。³⁹⁾

「図書館学の修士号につながる 4 学期（2 ヶ年）の大学院教育がカナダにおける図書館専門職の基本的教育である。カナダの図書館学部は 5 ヶ年以内に（すなわち、1973 年までに）、その新しい修士課程プログラムを実施するよう努力する。」

会議に参加した 7 つの図書館学部の代表者のうち、アルバータ大学図書館学部の代表者は 1968 年に創設されたばかりであったので、上記の決議には加わらなかった（棄権した）。1966 年には Canadian Association of Library Schools が設立されていたが、その協会の 1968 年の年次大会でその決議は承認された。⁴⁰⁾しかし、カナダの図書館界すべてが支持した訳ではなく、Canadian Library Journal に反対論が載ったりもした。⁴¹⁾

1970 年代に入ると、オタワ大学の図書館学部は 1972 年に修士課程に再編成した後、学部長問題（人事）でもなく廃部されるが、アルバータ大学も含め、カナダの他のすべての図書館学部が修士課程（修士号）を基本的専門職教育とすべくカリキュラム再編を行う。そして、その後約 15 のアメリカ合衆国の図書館情報学部が廃部に追い込まれるのに反し、現在でもその 7 学部は健在である。⁴²⁾その意味で、このトロント会議はカナダの図書館学教育の歴史上極めて重要な位置を占める。また、ウェスター・オンタリオ大学を除けば、すべての図書館学部が 2 ヶ年修士に変更するので、このトロント会議がカナダの図書館学教育がアメリカ合衆国と異なる道を歩む大きな分岐点でもあった。何故アメリカ合衆国と異なる道を選んだかということについては、上記の「1 年のプログラムで必須部分をカバーすることが次第に難しくなってきていた」という要因も大きいが、カナダの大学では修士号につながる大学院教育は大学の威信を保持するため厳

しいレビュー（評価）があり、そのために2ヶ年修士にする必要性もあった。⁴³⁾

なお、上記で図書館専門職という場合、学校図書館員（school librarian）は除外される。学校図書館員になるためには教育免許状が要求される。その上に学校図書館と関わる図書館学の科目をいくつか履修する必要がある。図書館学部（もしくは図書館情報学部）は、卒業生が学校図書館も含めて、大学図書館、公共図書館、専門図書館等に就職できるよう多種多様なプログラムを編成していたが、その7つの図書館学部だけでは学校図書館員の需要を満たすことができなくなっていた。そこで、1960年代に入ると多くの教育学部で図書館学プログラムが組まれ、学校図書館員の養成が行われるようになった。⁴⁴⁾

5.2 図書館技能者教育の誕生

1960年代は、カナダが専門職図書館員の養成を2ヶ年の修士課程で行うというアメリカ合衆国とは異なる大きな決断をした時期であるが、アメリカ合衆国と異なるもう一つの図書館学教育がスタートした年代でもあった。それは、図書館技能者（library technician）の教育のスタートである。

アメリカ合衆国においては、図書館技能者（合衆国では library assistant または library technical assistant という名称が一般的である）の養成を目的とする図書館学教育は短期大学や4年制大学を中心に長い歴史をもっているが、制度的、組織的な取り組みは殆どなされなかった。特に、ALA の1951年基準が修士課程の教育を専門職教育の基本とすると謳うことによって、職能団体としてのALAの活動範囲からはずされることになった。図書館界でたまに図書館技能者の養成が話題に上ることはあったが、図書館学教育といえば通常、専門職図書館員の養成を意味していた。

それに対して、カナダの状況はいくぶん異なっていた。カナダにおける図書館技能者教育は、マニトバ工科大学 (Manitoba Institute of Technology, 現在の Red River Community College) の 1962 年の開講を嚆矢とする。1966 年には、バンクーバー市立大学 (Vancouver City College, ブリティッシュ・コロンビア州にある短期大学) とレイクヘッド大学 (Lakehead University, オンタリオ州にある 4 年制大学) で同様な図書館学教育が始まった。そこでは教育の焦点（中心）は実務に置かれた。あらゆる館種の技能的補助者としてすぐに役立つということを目標としていたため、図書館が現在必要としているものが重視され、理論的側面より実務的側面が強調された。⁴⁵⁾

この図書館技能者教育は専門職図書館員の間では不人気であったが（もしくは無視されたが）、CLA は直ちに Committee on Training of Library Technicians を設置し、図書館技能者のための教育指針を 1967 年に報告書という形で出した。その報告書は、図書館における図書館技能者の地位と役割、養成カリキュラム、教員の質、資料源の入手等について明確にする必要があることを指摘した。⁴⁶⁾ 1967 年には、オンタリオ州が新しく設立する 5 つの工芸大学 (college of arts and technology, 州立の短期大学) で図書館技能者の養成を行うことを決定した。そして、ケベック州でも 1968 年から、1960 年代後期に再編された基本的に短期大学システムである一般・職業教育大学 (college d'enseignement général et professionnel, 以下、CE-GEP と略称) の 9 大学において同様な養成を始めた。この 2 州が図書館技能者の養成に積極的に取り組んだ背景には、1) 1950 年代以降図書館サービスが急激に拡張し図書館で働く職員の需要が高まったこと、2) 職場訓練による図書館技能者の育成はコスト的に高くつくようになったこと、などの要因があった。このように、カナダにおける図書館技能者教育は、マニトバ工科大学の 1960 年代初頭の開講があったけれども、ほとんどは

1960年代後半のスタートであった。そして、1960年代の終わり頃には15大学（短期大学13、4年制大学2）が図書館技能者の養成教育を行っていた。⁴⁷⁾アメリカ合衆国には図書館技能者の養成を行っている大学の数はカナダの数倍あったけれども、職能的対応は殆どなされなかった。それに対して、カナダでは2つの州が州レベルで取り組んだ上に、その数が1960年代後半に急増したことによって、1970年代に入るとCLAをはじめとする職能団体が組織的な取り組みをするようになる。

6. 1970年代の図書館学教育

6.1 専門職教育の2ヶ年修士課程化

1970年代は、カナダの図書館学教育が実質的にアメリカ合衆国の図書館学教育と異なる道を歩み始める時期である。1968年にトロント大学で開催された図書館学教育会議（トロント会議）における決議を、トロント大学とモントリオール大学は1970年、ダルハウジー大学は1971年、ブリティッシュ・コロンビア大学とオタワ大学は1972年、アルバータ大学は1976年に実施に移した。すなわち、ウェスタン・オンタリオ大学を除くすべてのカナダの図書館学部が、1970年代に図書館学士課程（BLS）を廃止して2ヶ年の修士課程に切り替えた。しかし、オタワ大学の図書館学部は再編直後に学部長を失くして将来計画が立てられず、まもなく廃校（学部）になった。⁴⁸⁾

最も充実していたトロント大学の場合、新しい修士課程の教育目標を次のように設定した。

「図書館の管理運営者として、計画者として、そして実践者として直面する問題に対し、思考し解決（行動）することができるような学生を育てることである。図書館員（卒業生）が図書館のどのような領域

に関心があろうとも創造的に思考できるよう修士課程の教育は知的、理論的側面が強調される。図書館および司書職は絶えず変化しているため、図書館学の教育者が将来の要求を見通すことは不可能である。それ故、問題を分析し、自分なりの解決策を見つけることのできる図書館員を養成すべく教育者は努力すべきである。図書館員がどのような状況に置かれても効果的に対処できるよう図書館学教育は方法論を教えるべきである。」⁴⁹⁾

トロント大学の新しい修士課程のカリキュラムは、コア科目と選択科目から成り立っていた。初年度は Social environment and the library, Information resources and library collections, Organization of information, Library administration, Research methods, Computer programming などのコア科目を履修し、2ヶ年目は専門化 (specialization) のための選択科目を履修すべく設計されていた。学部の名称も 1972 年には School of Library Science から威信のある Faculty of Library Science に格上げされた。⁵⁰⁾

1960 年代後半に遅く修士課程に変更したマギル大学の図書館学部は、その修士課程の教育目標について次のように述べている。

「学生が卒業後、図書館で実践を開始 (begin practice) できるよう、学生に十分な能力を身に付けさせることである。大学での学習は専門職員としての生涯学習の継続の一環であり、マギル大学の卒業生は広い意味で生涯学習をつづける能力を身に付けているはずである。マギル大学の図書館学部は、卒業生が特定の職に就くことを目的とするのではなく、生涯にわたって専門職員として歩むよう教育している。専門職員の要件は適応性、問題解決における創意性、社会の要求に対する鋭敏性、専門職員としての責任感であり、そのような専門職員を養成するのがマギル大学の図書館学部の教育目標である。」⁵¹⁾

その教育目標を達成するために、マギル大学はカリキュラムを大きく 4

部門に分けて編成した。1) パブリック・サービス部門（閲覧、レファレンス、利用者教育など）、2) テクニカル・サービス部門（選書及び発注、目録、分類、索引、保存、蔵書の評価など）、3) 特定サービス部門（サービス対象による区分：公共図書館、大学図書館など；資料による区分：科学技術文献、政府刊行物、視聴覚資料、文書、稀覯本など）、4) 強化研究部門（図書館システムのデザイン、調査研究法、図書館評価法、図書館自動化論、コミュニケーションなど），である。しかし、マギル大学は専門化（specialization）をあまり重要視しない。あまり専門化すると職の移動性（mobility）の足枷になる、と判断するからである。それ以上に、専門職は特殊な知識や技術だけでなく、難解な問題に直面した際にその知識を批判的かつ創造的に適応する能力を要求する、ということを見落とす危険性があると判断するからである。⁵²⁾

他方、1970年に修士課程に切り替えたモントリオール大学の場合は、カリキュラムはコア科目と選択科目からなり基本的にトロント大学と同じであった。しかし、モントリオール大学では修士課程を修了するための必要単位48単位のうち、12単位まで関連ある他の大学院の科目を履修することができた。それは専門化（specialization）の学際性を高めるための方策であった。⁵³⁾ダルハウジー大学の場合は、1969年から1971年まではアメリカ合衆国型の修士課程（3学期）とカナダ型の修士課程（4学期）の両方を編成していた。しかし、1971年の秋学期からカナダ型に統一した。⁵⁴⁾

ブリティッシュ・コロンビア大学は1972年に修士課程に再編したが、まもなく教育学との共同プログラム（joint program）も開始した。それは図書館学に強い学校図書館員の養成をめざしていて、（サマーセッション時も履修しなければならなかったが、）2ヶ年でMLSと同時に教育免許が取得できるというプログラムであった。最初の年は図書館学部から8科

目、教育学部から 1 科目、2 年目は図書館学部から 6 科目、教育学部から 7 と 1/2 単位、サマーセッション時に教育学部から 2 科目を履修すれば、MLS と教育免許が取得できるという仕組みになっていた。⁵⁵⁾

アルバータ大学は 1968 年のトロント会議の決議の際には棄権した。アルバータ大学の図書館学部は 1968 年時点では開講したばかりであり、大学当局や他の関連部署との関係も重視する必要があった。そのため、学部長の判断で他大学の図書館学部と行動を共にすることができなかった。しかし、1970 年に教育学部と共同プログラムを編成して、学校図書館員のための図書館学修士課程を設置した。そして、1976 年には他のカナダの図書館学部と足並みを揃えるべく図書館学部独自の 2 ヶ年修士課程に切り替えた。学部は 1975 年に School of Library Science から Faculty of Library Science に格上げされた。⁵⁶⁾

アルバータ大学の再編成が他の図書館学部より遅れたこと、また、1976 年という時点で改編したことについては、2 つの他の要因も加わっていた。上記のように、カナダ図書館学部協会 (Canadian Association of Library Schools) は 1968 年に専門職教育の基本を 2 ヶ年の修士課程に格上げすることを決議したが、CLA は依然として図書館学士 (BLS) を専門職教育の基本として認めていた。それは、専門職教育に関するかぎり、必ずしも修士課程に変更する必要がないことを意味していた。しかし、アルバータ大学図書館学部は、ALA による再認定の時期 (1976 年) が近づいた時、図書館学部独自の修士課程の設置（再編成）を余儀なくされた。何故ならば、ALA は 1973 年以降の認定を新しく設定した 1972 年基準、すなわち、修士課程を基本とする基準で審査していたからである。⁵⁷⁾ アルバータ大学の修士課程のカリキュラムは、コア科目と専門化を意図した選択必修科目からなっていた。しかし、学生は不透明な未来を反映し、何でも屋をめざして幅広く科目を選択する傾向にあった。修士論文 [3 科目に相当し

た] がオプションになっていたため、その拡散はますます強まった。⁵⁸⁾

1967 年に創設されたウェスター・オンタリオ大学の図書館情報学部は設立当初からアメリカ合衆国型の修士課程であったが、1970 年代に入りカリキュラムを大きく変更した。1974 年にすべての科目を 3 単位にし、9 つの必須科目と 6 つの選択必須科目の履修を学位（修士号）取得の条件とすべく改編していたが、1979 年に再度改編した。1979 年の改編の際には必須科目を 8 に減らし、学生の選択の幅を広げた。典型的な履修パターンは 1 学期に 4 つの必須科目と 1 選択科目、2 学期に 3 つの必須科目と 2 選択科目、3 学期に 1 必須科目と 4 つの選択科目を履修することであった。また、1974 年に導入された ‘special topic’ という名称の付いた一連の科目が選択科目の範囲を広げた。教育は従来の主題および歴史的アプローチから実用的、知的技術アプローチへと強調点が変わった。⁵⁹⁾

ウェスター・オンタリオ大学はまた、情報科学と図書館学をうまく統合させていた。1978–79 年の図書館情報学部の案内 (calendar) は次のように記している。

〔ウェスター・オンタリオ大学〕図書館情報学部の MLS プログラムは、情報科学と図書館学を統合させている。コンピュータはそれ自身学問の対象となるより、情報の組織化などある目的達成のためのツールとしてより認識されるにつれ、この統合は必須である。図書館員や情報スペシャリストの研究領域は情報である、と我々は認識している。我々は情報の研究を「学問」として教授する。そして、情報の生産および利用に関わる法則や、情報の組織化、蓄積、提供を決定（支配）する原理を教授する。⁶⁰⁾

図書館学教育はカナダやアメリカ合衆国では professional school と呼び、基本的に専門職図書館員の養成のための教育である。わが国流で言えば、図書館学教育は実践の科学（学問）である。専門職員を養成するため

には、通常、実習がカリキュラムの一部に組み込まれる。図書館学教育の中にも実習がある。その実習に対する考え方方が1970年代に変化していく。

トロント大学の場合、1950年代初頭までは、学生は2学期に毎週トロント市公共図書館で部分的実習（図書館経験）を経験し、さらにその後2週間つづけて監督の指導の下にインテンシブな実習をする必要があった。1960年代中頃になると図書館で働いた経験のない新入生は、登録前に図書館経験を積むことを勧める、という勧告事項になった。1970年代になると、上記のように、教育の中心は学生が就職先（図書館）で問題を創造的に解決できるよう知的、理論的側面が重視されるようになり、入学前の図書館経験については一言も触れていない。しかし、実習を全く無視している訳ではなく、公共図書館をめざす学生のために2単位の実習科目‘Practicum in community Services’があり、問題（課題）中心の実習に変わってきた⁶¹⁾。

他方、ダルハウジー大学はすべての学生に、面密な計画の下に監督指導される100時間の図書館実習を課している。しかし、実習先は学生が主体的に決めることができる。その過密的実習に加えて、同大学ではさまざまなタイプの図書館の見学研修や年1回の優秀な図書館見学も課している。⁶²⁾

ウェスター・オンタリオ大学の図書館情報学部は特殊な形態の実習を実施している。同大学では4種類の実習科目を開講しているが、それらはシミュレーション実習である。実験室的状況を作つて専門職的・技術的課題を課し、その課題を遂行することによって学生が現実の図書館および情報センターの技術的側面の重要性を理解することが意図されている。図書館情報学部の図書館が実験室としてよく使われる。また、一部の学生にしか適応されないが、図書館情報学部は図書館とwork-studyという共同プ

ログラムを開発しており、それを利用することにより図書館経験を積むことが可能である。⁶³⁾

ブリティッシュ・コロンビア大学の図書館学部の場合は、実習を必須としていないが、MLS プログラムの重要な要素とみなしている。他方、マギル大学は実習をあまり重要視せず、夏期休暇中に学生がアルバイトで体験する図書館経験は重要である、と言っているくらいである。⁶⁴⁾このように、図書館学部間で実習に対する考え方が相違し、実施方法も異なっている。そして、全体的には実習はだんだん軽んじられ、理論的側面が重視されるようになってきている。

以上、専門職教育の 2 ケ年修士課程化について論じてきた。1970 年代はカナダの経済に陰りが見えはじめ、やがて深刻になっていく時代であるが（そのことはアメリカ合衆国についても言えることであるが）、上記 7 つの図書館学部の修士課程のカリキュラムを見た場合、大体以下のような特徴をもっていた。⁶⁵⁾

- 1) 専門職の基本教育が 2 ケ年の修士課程に変更されたことにより、科目 Research methods が導入されるようになった。
 - 2) 1970 年代までに図書館が膨大化、かつ複雑化して経営的側面が重要になり、科目 Library administration が導入されるようになった。
 - 3) 情報技術の発展により、科目 Information retrieval や Library automation などが導入されるようになった。
 - 4) 科目 Reference service や Cataloging の中にも情報技術が取り入れられるようになった。
 - 5) 類縁領域の科目である Archival studies が導入されるようになった。
- カナダのこの修士課程を考察したブリティッシュ・コロンビア大学の B. Stuart-Stubbs は、専門職図書館員の基本的教育をアメリカ合衆国のように 1 ケ年で行うことは無理であり、カナダの採った道は正しかった（成

功であった), そして, カナダの図書館学教育を受けた卒業生は世界でもトップレベルにある, と評価している。⁶⁶⁾

6. 2 博士課程の誕生

1970 年代は, トロント大学とウェスター・オンタリオ大学に博士課程が設置された時代でもある。トロント大学図書館学部は 1970 年に大学院委員会 (Council of the School of Graduate Studies) へ博士課程設置の提案をした。博士課程は, 学生が将来大学での教育・研究をキャリアとするか, もしくは図書館界で研究をキャリアとすべく研究能力を身に付けるさせることを目的としていた。それ故, そのカリキュラム案は図書館学の理論面を深く追求し, かつその知識を実践に応用できるよう, そしてまた, 問題を認識し分析する能力を身に付けることができるよう編成されていた。⁶⁷⁾ その提案は大学院委員会の承認を得ることができたので, 直ちにオンタリオ州の Appraisal Committee of the Ontario Council on Graduate Studies へ上程された。その Appraisal Committee は, 3人の専門家 (ALA 図書館学教育部長 L. Asheim, ワシントン大学図書館学部長 I. Lieberman, ケイス・ウェスター・リザーブ大学図書館学部名誉学部長 J. Shera) の意見を参考に検討し, Ontario Council on Graduate Studies へ承認するよう勧告した。そして, その Ontario Council, トロント大学の大学評議員会, 大学理事会の審議を経て, 1971 年にカナダにおける最初の図書館学の博士課程がトロント大学に設置された。アメリカ合衆国と比較すると, 約 40 年遅れての設置であった。1971 年に 2 人の学生が入学し, 1974 年にはカナダの大学から最初の図書館学博士が誕生した。⁶⁸⁾

トロント大学の図書館学部は, 早くも 1972 年にはオンタリオ州の Advisory Committee on Academic Planning of the Council of Ontario Universities の審査を受けなければならなくなつた。ウェスター・オンタリオ大学の

図書館情報学部も博士課程の設置を計画したからである。その Advisory Committee は L. Asheim や UCLA 図書館学部の R. Hayes 等 4 人のコンサルタントに調査を依頼した。トロント大学、ウェスター・オンタリオ大学、オタワ大学の図書館学部もしくは図書館情報学部を実地調査した 4 人のコンサルタントは 2 つの博士課程の必要性を認め、それぞれ専門領域を決め専門の教員を補強するよう勧告した。また、博士課程を設置する 2 つの図書館学部は協力関係も樹立するよう勧告した。トロント大学はその勧告に従い、専門としている 3 領域、すなわち、社会環境と図書館、情報源と図書館蔵書、図書館経営管理を再検討し教員も補強した。補強された教員の中には、学内の他学部との兼任もしくはウェスター・オンタリオ大学との兼任の教授もいた。⁶⁹⁾

1973 年には、ウェスター・オンタリオ大学の図書館情報学部に書誌コントロール領域に限定した形ではあったが、博士課程が設置された。同年 7 月、オンタリオ州大学局は両大学の博士課程を財政的にバックアップすることを公表した。ウェスター・オンタリオ大学の最初の博士号取得者は 1978 年に誕生した。1979 年には 12 人が博士課程に在学し、計画通りの進捗状況であった。また、1978 年には Appraisal Committee of the Ontario Council on Graduate Studies の再審査を受けたが、継続して財政的援助を行うに値するという評価も得た。⁷⁰⁾

6.3 図書館技能者教育の飛躍的発展

1970 年代はまた、図書館技能者教育が飛躍的な発展を遂げた時代でもある。図書館技能者教育を行っている大学は、1973 年までに 24 大学（短期大学 22, 4 年制大学 2）に増えた。その分布状況はブリティッシュ・コロンビア州 1 校、アルバータ州 2 校、サスカッチャワン州 1 校、マニトバ州 1 校、オンタリオ州 9 校、ケベック州 10 校という具合であった。ケベ

ック州の 10 校を除けば、ほとんどが 2 ヶ年履修のプログラムであった。そしてまた、ほとんどが extension program も提供していて、学生は職をもちらながらパートタイムで勉強し、修了証書を取得することが可能であった。⁷¹⁾

CLA は Committee on Training of Library Technicians を設置し、カリキュラムの標準化の必要性を指摘する報告書を 1967 年に出していたが、上記のような図書館技能者教育の急増に対応すべく 1973 年には Guidelines for the Training of Library Technicians を作成し公表した。その Guidelines によると、図書館技能者は図書館専門職と事務職の間に位置する準専門職で、図書館のさまざまなサービスにおいて専門職図書館員を補助する。また、図書館技能者は事務職員や学生補助を指導したり、専門図書館員の指導の下に係の責任者にもなり得る。⁷²⁾

具体的な職務内容としては次のようなものを例示している。

パブリック・サービス部門：貸出業務、クイック・レファレンス、重複資料の処理、ヴァチカル・ファイルの維持、AV 資料の準備など

テクニカル・サービス部門：書誌調査（重複調査も含めて）、発注・受入業務、記述目録の作成、目録の編成・維持など

その他：事務ファイルの記録・維持、書庫管理、PR のための資料の準備、必要に応じた監督的業務など

図書館技能者教育の履修年限は 2 ヶ年とし、内容的な面では大学専門 (academic) 50%，図書館技術 (library technical) 25–30%，技術関係 (related technical) 20–25%，のカリキュラム構成が推奨されている。10 日間の図書館実習も推奨され、カリキュラムのモデルは以下のようになってい

る。⁷³⁾

大学専門 (Academic Studies, 50%)

Language (English and/or French)

Litrature in English and/or French Canadian literature emphasized

Environmental studies : ecology, urban development, etc.

History (and/or) philosophy of science

Languages : French, German, Spanish, Russian, etc.

Life sciences : anthropology, biology, etc.

Music

Canadian studies

Philosophy : the history of ideas, contemporary thought, etc.

Physical sciences : chemistry, physics, mathematics, etc.

Social sciences : economics, political science, geography, history, education, sociology, psychology, cultural anthropology

図書館技術 (Library Technical, 25–30%)

Introduction to libraries

Acquisition procedures

Basic reference and bibliography

Circulation and control of materials

Classification systems

Descriptive cataloguing

Filing principles and practices

Machines in library work

Half-term elective relating to needs of a particular community, e. g. government documents, technical information systems, documentation techniques

関連技術 (Related Technical, 20–25%)

Media production and equipment handling

Data processing

Office procedures

Business and/or personnel management

Typewriting

実習 (Field Practice)

その Guidelines は、教員スタッフに関してプログラム長と専任教員一人を最低基準とし、それにいく人かの非常勤スタッフを加えるよう推奨している。また、図書館技能者の教育は、あらゆるタイプの図書館が存在し学生が実際に観察でき実習できるような地域で、なおかつ、卒業生の需要がある地域で行われるべきである、とも記している。その上、図書館技能者教育のプログラムを開始する前に、地域の図書館の代表者からなる地域諮問委員会 (local committee や provincial committee) を設置して諮問すること、そして、その地域委員会は卒業生の需要を調査したり、設置後の相談役になるべきであるとも記している。⁷⁴⁾

Committee on Training of Library Technicians は Guidelines を公表した後、Guidelines が実施に移されるよう定期的に各短期大学の養成担当者と会合をもったり、全国の養成状況を調査したりした。また、新卒の給与レベル案を提示したりもした。その結果、4–5 年内にケベック州以外のほとんどの短期大学が大方その Guidelines に沿ってプログラム編成を行うようになった。⁷⁵⁾

しかし、図書館技能者の教育に関してはいくつかの問題点も存在した。各短期大学とも設置されている地域の必要性に合わせてカリキュラムを編成していた（それは指針に基づくことにもなっていたが）。その上、図書

館技能者の教育に対しては認定制度が確立していないため標準化がなされておらず、そのため州を越えた短期大学間における単位の互換性もなく、卒業生はその短期大学が設置されている地域でしか職を得ることができなかつた（それも指針が意図していることではあったが）。そのような状況も大きな要因の一つになっていると思われるが、図書館技能者の全国的な組織はなく州単位の組織に留まっていた（現在もそうである）。⁷⁶⁾また、教育それ自体の問題ではないが、卒業生の就職の際に問題があった。1970年代の時点では、フォーマルな図書館技能者教育の歴史が浅かつたせいもあるが、多くの図書館が図書館技能者という職位を設けていなかつた。多くの卒業生が‘library assistant’, ‘resource assistant’, ‘circulation assistant’, ‘cataloguing assistant’などの肩書きで雇用された。実際の職務内容は図書館技能者のそれであっても、それが肩書きや職務記述（job description）には反映されなかつた。すなわち、職位的には一般事務職とほとんど同じ扱いであった。⁷⁷⁾

ケベック州の場合、10校の中9校は州立の CEGEP に設置され、履修年限は3年である。この履修年限が他州と異なるのは、教育システムが相違するためである。他の州が義務教育年限を12–13年としているのに対し、ケベック州は11年である。それ故、図書館技能者の総教育年限はケベック州も含めて14–15年となる。また、ケベック州は、図書館技能者教育の履修内容についても他州と異なる。ケベック州では州教育局によって既に履修モデルが作成されていたため、CEGEPではCLA作成の1973年モデルの影響をあまり受けることはなかつた。ケベック州教育局の作成したモデルを見ると、次のようになつてゐる。⁷⁸⁾

大学専門 (Academic Studies, 50%)	科目数	単位
Language and literature	4	8

Philosophy	4	8
Physical education	4	2 2/3
English language	3	6
Complementary courses : geography, history	4	8
図書館技術 (Library Technical, 30%)		
Introduction to library technology		2 1/3
Reference work		2 1/3
Cataloguing		2 1/3
Dewey classification		2 1/3
LC classification		2 1/3
Audio-visual		2 1/3
Research work		1 1/3
Interpretation of the role of the library in the community		2
Loan, preservation and "animation"		2 1/3
Field practice		11 2/3
Acquisitions procedures, periodicals and filing principles and practices		2 1/3
関連技術 (Related Technical, 20%)		
History of science and scientific method		2
Masterpieces of world literature		2
Administration and human relations		2
Bookkeeping, office work, working relations		2
History of arts and aesthetics		2 2/3
Typing (2科目)		2
Data processing		2

上記のカリキュラムは、大学専門 19 科目（32 と 2/3 単位）、図書館技術 11 科目（33 と 2/3 単位）、関連技術 8 科目（14 と 2/3 単位）、合計 38 科目（81 単位）の構成となっている。⁷⁹⁾しかし、情報化の進展に伴い、また、図書館技能者の過重供給もあって、ケベック州は図書館技能者教育を履修した学生が図書館だけでなく、文書館、企業の記録管理、ドキュメンテーション・センター、書店等に就職できる可能性を模索し、1975 年には図書館技能者教育のプログラムを大改訂した。‘Quebec College Guidelines for Documentation Technology Programs’ がそれである。その Guidelines による科目構成は以下の通りである。⁸⁰⁾

大学専門 (Academic Studies, 28%)	科目数	単位
Language and literature	4	6
Philosophy or humanities	4	6
Physical education	4	4
Complementary courses (second language, and/or student's choice)	4	6
技術 (Technical, 40%)		
Introduction to documentation	3	
Reference work	3	
Records management	2	
Introduction to indexing and classification	2	
Dewey Decimal Classification	2 1/2	
Classification and filing of documents	2	
Audio-visual materials and equipment	1 1/2	
Cataloguing	3	
Conservation, preservation and repair of documents	1	

Library of Congress Classification	2 1/2
Government publications	2
Acquisition of documents	2
Periodicals	1 1/2
Circulation of documents	1
Research project	1 1/2
Publicity, animation and distribution	2
Documentation seminar	1 1/2
実習 (Field work, 15%)	11 2/3
関連技術 (Related Technical, 17%)	
Typing (2 科目)	3
Introduction to data processing	1 1/2
Introduction to programming	1 1/2
Office procedures	1
Accounting	2
Administration	1 1/2
Labour relations	2

上記のドキュメンテーション技術のカリキュラムは、大学専門 16 科目 (22 単位)、ドキュメンテーション技術 17 科目 (34 単位)、実習 (11 と 2/3 単位)、関連技術 8 科目 (12 と 1/2 単位)、合計 42 科目 (80 単位) の構成となっている。⁸¹⁾ 1975 年までの図書館技能者教育のカリキュラムと比較すると、専門分野 (図書館技術とドキュメンテーション) の科目が実習も含めると 11 科目 (33 と 2/3 単位) から 18 科目 (45 と 2/3 単位) と 1.5 倍以上に増えている。増加した科目の多くは、卒業生の就職の間口を広げるための文書館学、記録管理、ドキュメンテーション、などと図書館学と類縁

の科目である。

図書館技能者教育と比較した場合のもう一つの特徴は、「関連技術」(Related Technical) 分野の適正化である。図書館技能者教育のカリキュラムでは、Masterpieces of world literature, History of arts and aesthetics など「関連技術」分野としては疑わしい科目も入っていたが、ドキュメンテーション技術のカリキュラムではそれらの科目は削除され、新たに Introduction to programming が加えられるなど、納得のいく「関連技術」分野となっている。

注

- 1) 白井澄子「カナダの図書館員教育」『情報の科学と技術』40(5) : May 1990, p. 343-350.
- 2) Coughlin, V. "McGill University, Graduate School of Library Science," in: *Encyclopedia of Library and Information Science*, Vol. 17 (New York, Dekker, 1976, p. 304-311). なお、その Minimum Standards は、1) 1925 基準で認定された図書館学校が開講するサマーコース、2) 認定されていないが、認定された図書館学校と同等の機関で開講されるサマーコース、3) 教員養成学校やカレッジ等で開講されるサマーコース、4) 小規模図書館のライブラリアンや中規模図書館の助手養成のためのサマーコース、の 4 タイプに類型化していた。マギル大学はその 4) のタイプに認定された訳である。
- 3) Ibid. その Minimum Standards は図書館学教育を、1) 短期大学タイプの図書館学教育、2) 学士号を授与する学部課程の図書館学コースまたは学科、3) 資格 (certificate) を与える大学院レベルの図書館学教育、4) 修士号を授与する大学院レベルの図書館学教育、の 4 タイプに類型化していた。
- 4) Bassam, B. "Education of Librarians is Put in Historical Perspective," *Canadian Library Journal*. 36(3) : June 1979, p. 77-86.
Land, B. "The University of Toronto, Faculty of Library Science," in: *Encyclopedia of Library and Information Science*, Vol. 30 (New York, Dekker, 1980, p. 472-491). なお、その講習は 1915 年を除き毎年開講された。
- 5) Bassam, B. op. cit.
Land, B. op. cit.
- 6) Williamson, C. C. *Training for Library Service : A Report Prepared for the Carnegie Corporation of New York*. N. Y., 1923.

- 7) Bassam, B. op. cit.
Land, B. op. cit.
- 8) Bassam, B. op. cit.
- 9) Land, B. op. cit.
- 10) Coughlin, V. op. cit. その Minimum Requirements は図書館学教育を、大学院課程（修士以上）の図書館学教育を行っている学科または学部をタイプ1、学士号を入学資格とする図書館学科または学部をタイプ2,4年制大学の学部レベルで図書館学教育を行っている学科または学部をタイプ3、と3タイプに類型化した。なお、大学院教育で図書館学士を授与するというのは奇異な感じもするが、法学や神学の分野でも同様に学士号を授与していたし、当時は珍しいことではなかった。(参照 : C. E. Carroll, *The Professionalization of Education for Librarianship*. Metuchen, N. J., Scarecrow Press, 1970, p. 163.)
- 11) McNally, P. F. "Fanfares and Celebrations : Anniversaries in Canadian Graduate Education for Library and Information Studies," *Canadian Journal of Information and Library Science*. 18(1) : April 1993, p. 6-22.
- 12) Coughlin, V. op. cit.
- 13) Bassam, B. op. cit.
- 14) Ibid.
- 15) Ibid.
- 16) Lajeunesse, M. "University of Montreal, School of Library Science (Ecole de Bibliothéconomie)," in : *Encyclopedia of Library and Information Science*, Vol. 18 (New York, Dekker, 1976, p. 272-275).
- 17) Land, B. "Recent Developments in Education for Librarianship in Canada," *Library Association Record*. 72(4) : April 1970, p. 142-146.
- 18) McNally, P. F. op. cit.
- 19) Ibid.
Bassam, B. op. cit.
- 20) McNally, P. F. op. cit.
Bassam, B. op. cit.
- 21) Litt, P. *The Muses, the Masses, and the Massey Commission*. Toronto, Univ. of Toronto Press, 1992.
- 22) Carroll, E. op. cit., p. 144-182.
- 23) "Standards for Accreditation. Presented by the ALA Board of Education for Librarianship and Adopted by the ALA Council, Chicago, July 13, 1951," in : *Encyclopedia of Library and Information Science*, Vol. 7 (N. Y., Dekker, 1972, p. 448-450)

- 24) McNally, P. F. op. cit.
Bassam, B. op. cit.
Land, B. "The University of Toronto, Faculty of Library Science," op. cit.
- 25) Coughlin, V. op. cit.
- 26) Land, B. "The University of Toronto, Faculty of Library Science," op. cit.
Bassam, B. op. cit.
- 27) McNally, P. F. op. cit.
Williams, E. E. *Resources of Canadian University Libraries for Research in the Humanities and Social Sciences*. Ottawa, National Conference of Canadian Universities and Colleges, 1962.
- Simon, B. V. *Library Support of Medical Education and Research in Canada : Report of a Survey of the Medical College Libraries in Canada*. Ottawa, Assoc. of Canadian Medical Colleges, 1964.
- Bonn, G. S. *Science-Technology Literature Resources in Canada : Report of a Survey for the Associate Committee on Scientific Information*. Ottawa, National Research Council, 1966.
- Downs, R. B. *Resources of Canadian Academic and Research Libraries*. Ottawa, Association of Universities and Colleges of Canada, 1967.
- 28) 例えば、次の文献を参照：
Henderson, B. "Library Education in Canada," *Canadian Library*. 21(3) : Nov. 1964, p. 176-174.
Henderson, M. E. "Library Manpower," *Canadian Library*. (Christmas no.) : 1966, p. 162-165.
- 29) Rothstein, S. "University of British Columbia, School of Librarianship," in : *Encyclopedia of Library and Information Science*, Vol. 3 (N. Y., Dekker, 1970, p. 274-276)
- 30) Ibid.
- 31) Cameron, W. J. "University of Western Ontario, School of Library and Information Science," in : *Encyclopedia of Library and Information Science*, Vol. 33 (N. Y., Dekker, 1982, p. 124-129)
- 32) Henderson, M. E. P. and Scossa, C. de. "University of Alberta, Faculty of Library Science," in : *Encyclopedia of Library and Information Science*, Vol. 37 (N. Y., Dekker, 1984, p. 2-8)
- 33) Horrocks, N. "Dalhousie University, School of Library Service," in : *Encyclopedia of Library and Information Science*, Vol. 37 (N. Y., Dekker, 1984, p. 65-70)
- 34) Lajeunesse, M. op. cit.

- 35) McNally, P. F. op. cit.
- 36) Land, B. "New Directions in Education for Librarianship," *Canadian Library Journal*. 26(1) : Jan. / Feb., 1969, p. 36-40.
- 37) Ibid.
- 38) Ibid.
Cameron, W. J. "In Canada : Education of Library and Information Professionals," *Canadian Library Journal*. 39(4) : Aug. 1982, p. 231-235.
- 39) Land, B. "New Directions in Education for Librarianship," op. cit.
- 40) Land, B. "Recent Developments in Education for Librarianship in Canada," op. cit.
- 41) 例えれば、次の文献を参照：
Spicer, E. J. "The Case Against a Two-Year First Degree Course for Librarians in Canada : A Personal View," *Canadian Library Journal*. 26(4) : 1969, p. 292-294.
- 42) ダルハウジー大学の図書館情報学部は最近廃部もしくは再編の危険性に見舞われたけれども、経営学部の中に留まることになった。参照：*The Bowker Annual : Library and Book Trade Almanac*, 1995 ed. (N. Y., Bowker, 1995, p. 98)
- 43) Cameron, W. J. "In Canada : Education of Library and Information Professionals," op. cit.
- 44) Land, B. "Recent Developments in Education for Librarianship in Canada," op. cit.
- 45) Weihls, J. R. "The Library Technicians," in : *Canadian Libraries in Their Changing Environment* (Toronto, York University Center for Continuing Education, 1977, p. 420-442)
Wilkinson, J. P. "Trends in Library Education—Canada," *Advances in Librarianship*. 8 : 1978, p. 201-239.
- 46) Canadian Library Association. "Committee on Training Library Technicians Revised Report", *Feliciter*. 12(11/12) : July/Aug. 1967, p. 1-10. なお、その Committee on Training Library Technicians は教育基準の設定だけでなく、図書館技術者の現状調査を行ったりしてクリアリングハウス機能も果たした。
- 47) Marshall, J. M. "Library Technician Programs : Survey," *Canadian Library Journal*. 33(3) : June 1976, p. 273-289.
- 48) Ellsworth, R. C. "The Library Technicians : An Emerging Canadian Profile," *Libri*. 23(2) : 1973, p. 122-128.
- 49) Wilkinson, J. P. op. cit.
- 49) Land, B. "The University of Toronto, Faculty of Library Science," op. cit.

- 50) Ibid.
- 51) Coughlin, V. op. cit.
- 52) Ibid.
- 53) Lajeunesse, M. op. cit.
- 54) McNally, P. F. op. cit.
- 55) Wilkinson, J. P. op. cit.
- 56) Henderson, M. E. P. and Scossa, C. de, op. cit.
- 57) Ibid.
- 58) Ibid.
- 59) Cameron, W. J. "University of Western Ontario, School of Library and Information Science," op. cit.
- 60) University of Western Ontario, School of Library and Information Science. *School of Library and Information Science, 1978-79.* p. 15-16.
- 61) Wilkinson, J. P. op. cit.
- 62) Ibid.
Horrocks, N. "op. cit. なお、年1回の図書館見学は、授業を休講にしてニューヨークやボストンなどの優秀な大規模の図書館を見学した。
- 63) Wilkinson, J. P. op. cit.
Cameron, W. J. "University of Western Ontario, School of Library and Information Science," op. cit.
- 64) Wilkinson, J. P. op. cit.
Coughlin, V. op. cit.
- 65) Stuart-Stubbs, B. "Trends in Library Education and Training in Canada," in : *New Information Technologies and Libraries* (Dordrecht, D. Reidell, 1985, p. 295-305)
Tague, J. "Information Science in Graduate Library Programs," *Canadian Library Journal*. 36(3) : June 1979, p. 89-96.
- 66) Stuart-Stubbs, B. op. cit.
- 67) Land, B. "The University of Toronto, Faculty of Library Science," op. cit.
- 68) Ibid.
Bassam, B. "Education of Librarians is Put in Historical Perspective," op. cit.
なお、トロント大学図書館学部では大学への博士課程上程と同時に、カナダの図書館界における博士号保持者の需要も調べて、十分な需要があることもつきとめている。参照: Denis, L. G. and Houser, L. J. "A Study of the Need for Ph. D. s in Library Science in Large Canadian Libraries," *Canadian Library Journal*. 29(1) : Jan./Feb. 1972, p. 19-27.

- 69) Land, B. "The University of Toronto, Faculty of Library Science," op. cit.
 なお、カナダの図書館学部は現職の継続教育や遠隔教育にも力を入れていたが、その遠隔教育にトロント大学とウェスター・オンタリオ大学の間に協力関係が生まれた。オタワ大学図書館学部が1974年に廃部になったので、その穴を埋めるべく両大学の図書館学部は共同で修士課程の遠隔教育(extension) プログラムを開発した。そして、1979年現在、オタワ地域の学生がパートタイムではあるが70人登録していた。(参照:Cameron, W. J. "University of Western Ontario, School of Library and Information Science," op. cit.)
- 70) Cameron, W. J. op. cit.
- 71) Marshall, J. W. "Survey : Library Technician Programs," *Canadian Library Journal*. 33(3) : June 1976, p. 273-289.
- Weihs, J. R. "The Library Technicians," op. cit.
 なお、履修年限に関しては、僅かにサスカッチャワン州の Kaisey Institute of Applied Arts and Technology とマニトバ州の Red River Community College のみが1年履修であった。また、オンタリオ州にある9校の中の1校はレイクヘッド大学 (Lakehead University), ケベック州10校の中の1校はコンコーディア大学 (Concordia University) で、それらは4年制大学である。レイクヘッド大学の場合、大学専門 (academic studies) の科目のみが学士号の履修単位として加算されるが、コンコーディア大学の場合は学士号につながる図書館学、すなわち, Bachelor of Arts (With a Major in Library Studies) を取得することができた。
- 72) CLA Committee on Training of Library Technicians. "Guidelines for the Training of Library Technicians", 所収: Angel, M. R. and Brown, G. R. "Survey of Library Technician Programs in Canada," *Canadian Library Journal*. 34(1) : Feb. 1977, p. 41-55.
- 73) Ibid.
- 74) Ibid.
- 75) Marshall, J. M. *Summary of a Survey of Library Technicians Training Programs in Canada*, The Revised Edition, 1973. Ottawa, CLA, 1974.
- Moriarity, W. "The New Breed : Library Technicians in Canada," *Canadian Library Journals*. 39(4) : Aug. 1982, p. 237-239.
- 76) Campbell, H. C. "Canadian Library Developments," in : *Bowker Annual of Library & Book Trade Information*, 1979 (N. Y., Bowker, 1979, p. 355-359)
- 77) Weihs, J. R. "The Library Technicians," op. cit.
- 78) Marshall, J. M. "Survey : Library Technician Programs," op. cit.
- 79) Ibid.

- 80) Weihs, J. "Survey of Library Technician Programs in Canada," *Canadian Library Journal*. 36(6) : Dec. 1979, p. 354-369.
- 81) Ibid. 単位数に関しては、筆者が各科目の時間数を単位に換算してリストしたため、合計にはほんの僅か違いが生じている。

付表 1931-1969 年にカナダの図書館学部(学科)によって授与された学位

図書館学部名 学位(授与初年度)	1949年 まで	1950- 1954年	1955- 1959年	1960- 1961年	1962- 1963年	1964- 1965年	1966- 1967年	1968- 1969年	合計
アルバータ大学図書館学部 図書館学士(1969)	-	-	-	-	-	-	-	42	42
ブリティッシュ・コロンビア大学図書館学部 図書館学士(1962)	-	-	-	-	62	97	147	162	468
マギル大学図書館学部 図書館学士(1931) 図書館学修士(1955)	325	185	133	78	109	147	6	-	983 199
モントリオール大学 図書館学部 図書館学士(1946)	17	18	20	50	69	81	72	131	458
Mt.セント・ヴィンセント大学図書館学科 図書館学士(1946)	19	10	14	-	-	-	-	-	43
オタワ大学図書館学部 図書館学士(1942) 図書館学修士(1954)	8	22	17	35	53	78	86	132	431 5
トロント大学図書館学部 図書館学士(1937) 図書館学修士(1951)	527	291	208	131	165	201	321	400	2244 71
ウェスター・オンタリオ大学図書館情報学部 図書館学修士(1968)	-	-	-	-	-	-	-	59	59
合計(図書館学士)	896	526	392	294	458	604	632	867	4669
合計(図書館学修士)	-	6	14	9	4	14	81	206	334
総合計	896	532	406	303	462	618	713	1073	5003

典拠: B. Land, "Recent Developments in Education for Librarianship in Canada," *Library Association Record*. 72(4) : April 1970, p. 142-146.